

令和6年度「全国学力・学習状況調査」の結果 －分析から見えてきた成果・課題と今後の取組について－

区名	淀川区
学校名	西三国小学校
学校長名	新木 克昌

文部科学省による「全国学力・学習状況調査」について、令和6年4月18日（木）に、6年生を対象として、「教科（国語・算数）に関する調査」と「児童質問調査」を実施いたしました。

大阪市教育委員会では、保護者や地域の皆様等に説明責任を果たすとともに、より一層教育に関心をお持ちいただき、教育活動にご協力いただくため、各学校が調査結果や調査結果から明らかになった現状等について公表するものとしています。

本校でも、調査結果の分析を行い、これまでの成果や今後取り組むべき課題について明らかにしてまいりましたので、本市教育委員会の方針に則り公表いたします。

なお、本調査により測定できるのは、学力の特定の一部分であり、学校における教育活動の一側面に過ぎません。

1 調査の目的

義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。さらに、そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

2 調査内容

(1) 教科に関する調査

- ・国語
- ・算数

(2) 質問調査

- ・児童に対する調査
- ・学校に対する調査

3 調査の対象

- ・国・公・私立学校の小学校第6学年の原則として全児童
- ・西三国学校では、第6学年87名

令和6年度「全国学力・学習状況調査」結果の概要

国語科について、平均正答率は全国を2.7ポイント、大阪市を1.0ポイント下回った。平均無解答率は全国より1.2ポイント、大阪市より0.3ポイント低かった。
算数科について、平均正答率は全国を3.4ポイント、大阪市を2.0ポイント下回った。平均無解答率は全国より0.3ポイント、大阪市より0.1ポイント低かった。
また、正答数が半分以下の児童の割合は国語科で26.3%、算数科で36.7%であった。
国語科、算数科ともに多くの課題を残す結果となった。
児童質問紙では、学校として注力してきた自己肯定感や夢を持つことに関する質問について、肯定的回答をする児童が、全国や大阪市を上回る結果となった。

分析から見えてきた成果・課題

教科に関する調査より

〔国語〕物語文の心情を読み取る問題については、平均正答率が全国及び大阪市よりも高く、一昨年の校内研究で国語科における「読むこと」「書くこと」の領域を中心に授業研究に取り組んだ成果が表れていると思われる。一方でそれ以外のほとんどの問題については、平均正答率が全国及び大阪市よりも低くなっている。複数の資料から情報を読み取る力、自分の考えを工夫して表現する力に課題が見られる。「学力向上支援チーム事業」の指導を生かすとともに、総合的読解力の授業に取り組み、情報を読み取る力や考えを表現する力を養っていきたい。

〔算数〕全16問中11問において、平均正答率が全国及び大阪市よりも低く、特に「図形」の領域の問題については、全国より6.8ポイント低く、大阪市よりも5.7ポイント低く課題が見られる。また、問題を読み取れていないと思われる誤答も多く見られ、読解力の底上げが必要である。今後、計算処理の定着を図る技能中心の指導から「図形」や「変化と関係」等の領域の力の向上とともに、思考力・表現力を養う指導へとシフトした授業改善が必要である。

質問調査より

「自分には良いところがあると思う」や「将来の夢や目標を持っている」の質問に対して、肯定的回答が全国や大阪市を上回っていた。「自尊感情向上特別授業」や「いいところみつけ」、「ハッピーポスト」などの取り組みが成果として表れてきているものと思われる。一方で、「学校の授業時間以外に、普段(月曜日から金曜日)、1日当たりどれぐらいの時間、勉強をしますか」の質問に対して、1時間未満と回答している児童の割合が56.9%であった。これは、全国(45.3%)、大阪市(51.3%)と比べても、家庭学習の時間が十分とは言えない結果であった。児童が学ぶ楽しさを感じ、学ぼうとする意欲を高める授業づくりに加えて、家庭と連携した家庭学習支援を強化していく必要がある。

今後の取組(アクションプラン)

国語科、算数科ともに正答数が半分以下であった児童の割合が高く、さらに算数科の正答数分布には、上位、中位、下位層の3つの山が存在している。国語科、算数科ともに学力に課題のある児童に対する底上げが喫緊の課題といえる。学校だより、学年だより、学校ホームページなどを活用し、家庭学習の習慣化を啓発するとともに、適切な家庭学習の課題を出し、その成果を確実に評価していく。また、学力補充が必要な児童に対して区役所と連携した事業である「放課後わくわく教室」への積極的な参加を呼びかけていく。そして、児童の学力向上に向けては、教員の授業力向上が必要不可欠である。今年度もすべての教員が「一人一授業」の取り組みとして授業公開をするとともに、教員が参観できる環境を整え、実践的な研修に力を注いでいく。また、「学力向上支援チーム事業」を活用して指導助言を受けたり、学校全体で指導案検討会・討議会を行う授業研究会を年間3回実施したりし、「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善に取り組み、児童が問題に対して自力解決できる力を伸ばしていきたい。

【 全体の概要 】

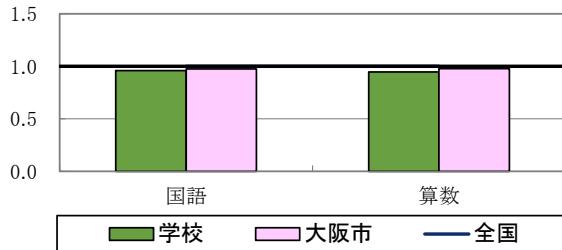
平均正答率 (%)

	国語	算数
学校	65	60
大阪市	66	62
全国	67.7	63.4

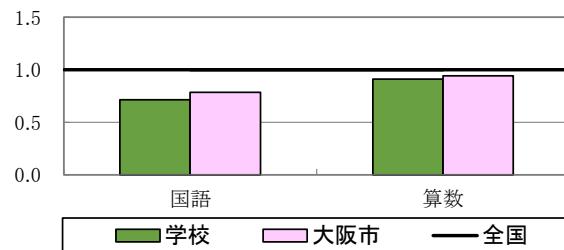
平均無解答率 (%)

	国語	算数
学校	3.0	3.1
大阪市	3.3	3.2
全国	4.2	3.4

平均正答率(対全国比)



平均無解答率(対全国比)



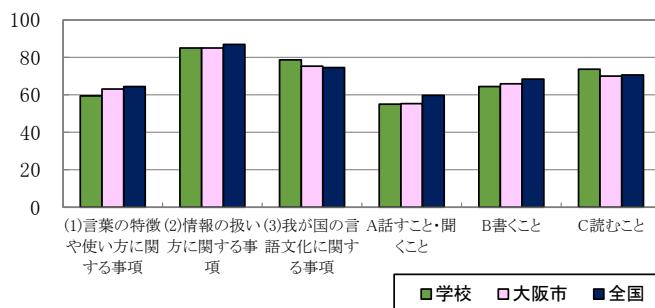
【 国 語 】

学年	対象設問数(問)	平均正答率(%)		
		学校	大阪市	全国
(1)言葉の特徴や使い方に関する事項	4	59.4	63.1	64.4
(2)情報の扱い方に関する事項	1	85.0	85.0	86.9
(3)我が国の言語文化に関する事項	1	78.8	75.3	74.6
A 話すこと・聞くこと	3	55.0	55.3	59.8
B 書くこと	2	64.4	65.9	68.4
C 読むこと	3	73.8	70.1	70.7

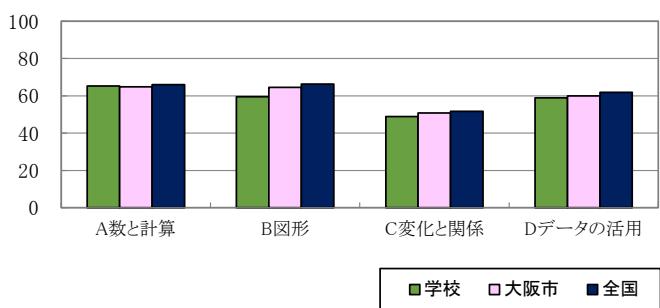
【 算 数 】

学年	対象設問数(問)	平均正答率(%)		
		学校	大阪市	全国
A 数と計算	6	65.2	64.8	66.0
B 図形	4	59.5	64.6	66.3
C 測定	0			
C 変化と関係	3	48.9	50.8	51.7
D データの活用	4	58.9	60.0	61.8

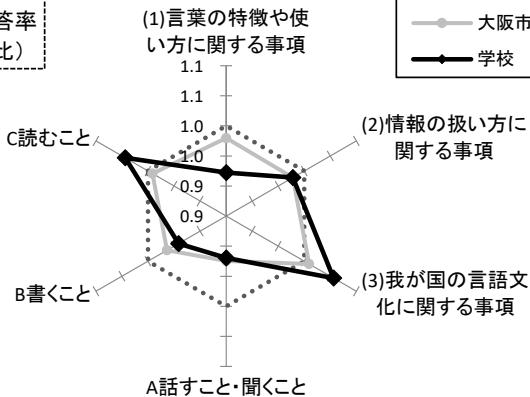
国語 内容別正答率(学校、大阪市、全国)



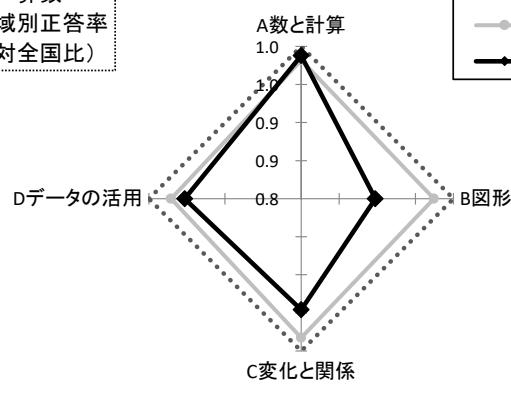
算数 領域別正答率(学校、大阪市、全国)



国語
内容別正答率
(対全国比)



算数
領域別正答率
(対全国比)



児童質問より

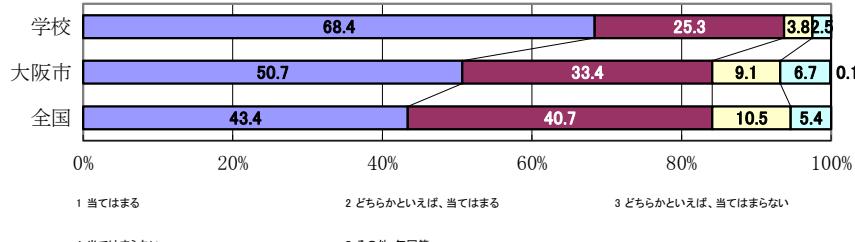
■1 ■2 □3 □4 □5 ■6 ■7 ■8

質問番号

質問事項

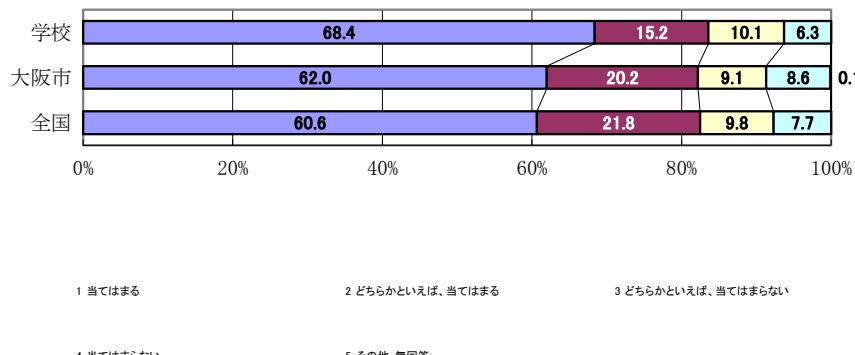
9

自分には、よいところがあると思いませんか



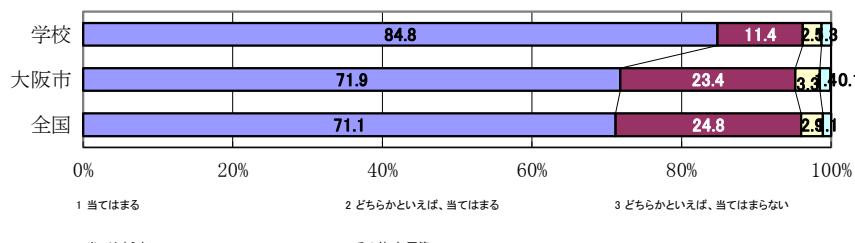
11

将来の夢や目標を持っていますか



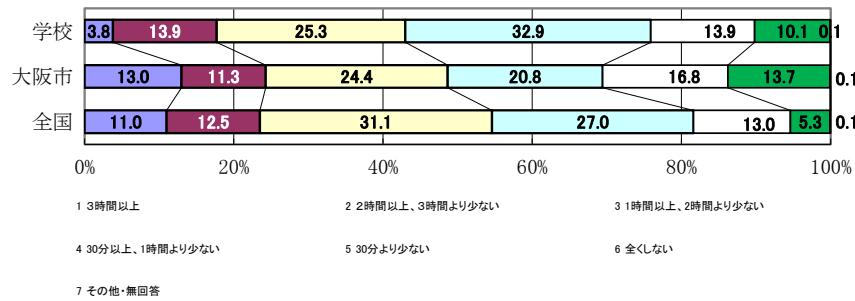
15

人の役に立つ人間になりたいと思いませんか



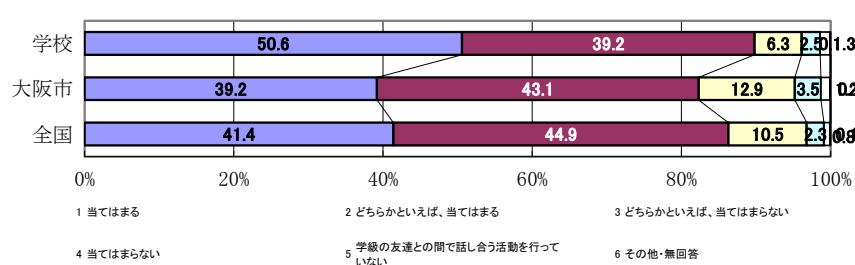
21

学校の授業時間以外に、普段(月曜日から金曜日)、1日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか(学習塾で勉強している時間や家庭教師の先生に教わっている時間、インターネットを活用して学ぶ時間も含む)



33

学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、新たな考え方方に気付いたりすることができていますか

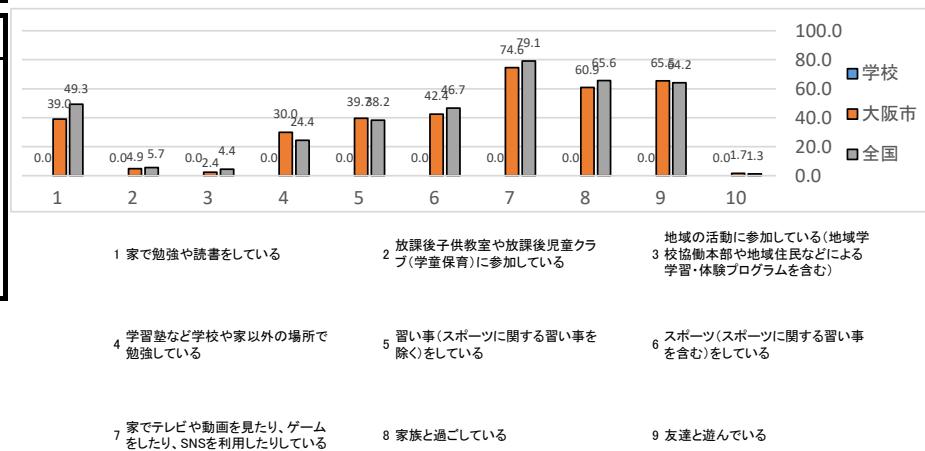


児童質問より(26)

質問番号
質問事項

26

放課後や週末に何をして過ごすことが多いですか
(複数選択)



学校質問より

■1 ■2 □3 □4 □5 ■6 ■7 ■8 ■9 ■10

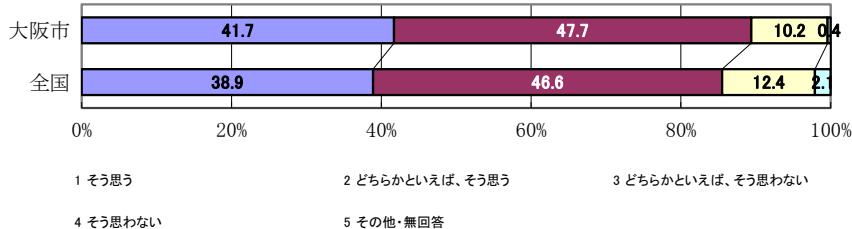
質問番号

質問事項

7

調査対象学年の児童は、授業中の私語が少なく、落ち着いていると思いますか

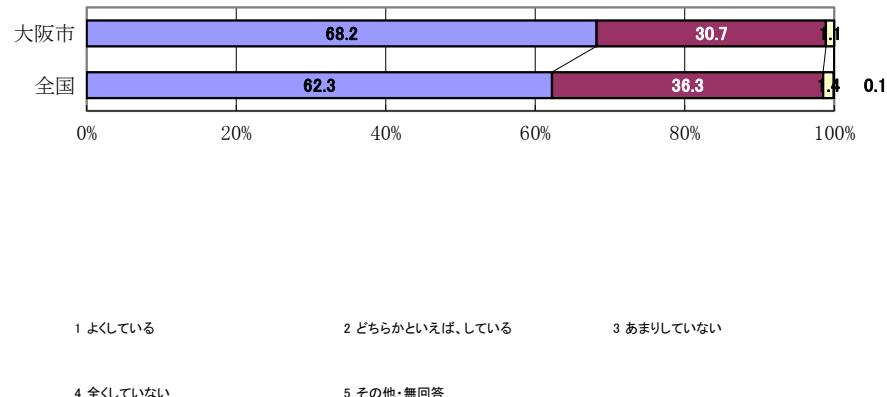
学校 「そう思う」を選択



16

授業研究や事例研究等、実践的な研修を行っていますか

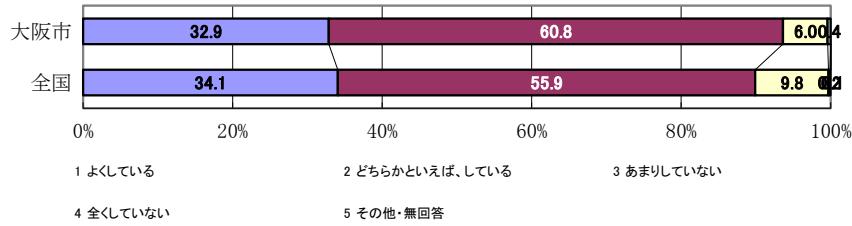
学校 「どちらかといえば、している」を選択



17

児童自ら学級やグループで課題を設定し、その解決に向けて話し合い、まとめ、表現するなどの学習活動を学ぶ校内研修を行っていますか

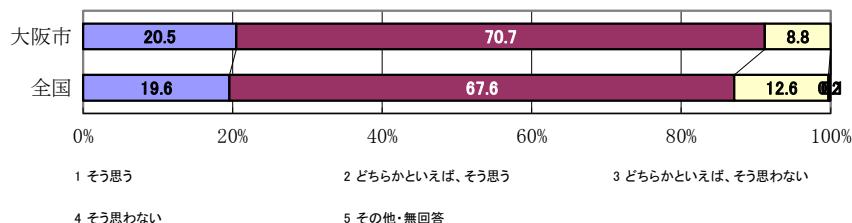
学校 「どちらかといえば、している」を選択



27

調査対象学年の児童は、学級やグループでの話合いなどの活動で、自分の考えを相手にしっかりと伝えることができていると思いますか

学校 「どちらかといえば、そう思う」を選択



56

調査対象学年の児童に対して、前年度までに、児童一人一人に配備されたPC・タブレットなどのICT機器を、授業でどの程度活用しましたか

学校 「ほぼ毎日」を選択

